

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	心 : 論説
Author(s)	藤本, 充安
Citation	龍南會雜誌, 2 : 1 2 - 1 6
Issue date	1891-12-20
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/3711
Right	

居正頓首。

此書則子錫弘毅齋遺稿跋中所謂忠厚之情、豪銳之氣、鬱勃溢筆端者也。今讀之。當時情勢恍如可見者、蓋其人有才幹力量、而文章亦光彩陸離、足動人。其獲罪而死、洵可惜也。

中村 正直

靖內亂以禦外侮、立意遠大、文辭簡樸、足聳動人。

重野 安釋

弘毅齋遺稿、故友落合翠香曾囑余爲點定、其邁往之氣、已見一斑。今讀此書、發揚蹈厲、信如翠香序云、奇傑之氣、倏然出於衆人之上、然急於功利、自見頗露、振矜之氣、以致不得其死、深爲斯人惜之。

光緒己丑初夏

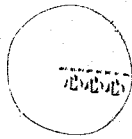
張 滋昉

心

藤本 充安

「心」と何をいふらん不思議さよ墨畫に書きし松風の音」ト其松風ノ音ニ等シキ心ノヲ我等白面ノ書生輩ガ彼是ト論議ス可キモノナルヤ又論議シ得ルモノナルヤハ須臾ク他日ノ問題ニ譲ル熱ラ「人間」ナル觀念ヲ呼起シ見レバ不思議ナルヲノミツ多カリケル春ノ朝ニハ花鳥ヲ追ヒ秋ノ夕ニハ風月ヲ尋ネ或ハ喜ビ或ハ悲ミ時トシテハ樂ミ時トシテハ怒ル其喜ビ樂ムハ已レノ意思ヲ達セルノ結果ナル可ク其悲ミ怒ルハ遂グ得ザルノ目的アルガ爲ナラン蓋シ縱横六大州上下五千

載此ノ地球上ニ大ナル運動ヲナセシモノハ自然力(地震等)ヲ別ニセバ人間ヲ措テ夫レ誰カアル
「スエズ」ノ地峽ハ誰カ之ヲ切斷セシヅ「エヤブト」ノ高塔ハ何者カ之ヲ打立テシヅ万里ノ長城ハ
誰カ之ヲ作リシヅ八百万ノ兵隊ヲ櫛ニテ量シハ誰ナルカ地中海中著明ナル中央半島ニ生レ東ノ
方印度迄遠征セシハ誰ゾ殊ニ太陽ヲ己ニ沒セントスルニ呼戻シタルハ誰ゾ「ナポレオン」ハ如何
「コロンブス」ハ如何其他十字軍トカ百年戰爭トカ佛國革命ト云ヒ宗教改革ト云ヒ人間ガ空間ト
時間ト物質トニ變動ヲ及ボセル事實ハ每葉ノ歴史之ヲ証シ每語ノ口碑之ヲ徴スルニアラズヤ其
他洋ノ東西ヲ問ハズ時ノ古今ヲ論ゼズ此地球ノ表面ニ散在スル凡テノ文學ハ天女ノ作ニアラズ
惡魔ノ述ニアラズ眞神ノ著ニアラズ悉ク是レ人間勞動ノ成果ニシテ一事一物タリトモ半事半物
タリトモ皆悉ク偏ク一切彼ノ所謂松風ノ音ヨリ生シタルモノナルヲ思ヘバ吾人不肖ト雖此音
ノ何物タルヤノ一端ヲ窺ハンコヲ望ムモ亦是非ナケレ



サレバ古今ノ人事ハ悉ク此音ノ踪跡ニ外ナラズ之ヲ幾何學的ニ説明セバ此等ノ心ノ一ヲ中心ト
シ其心ノ列ノ長サヲ半徑トシテ圓ヲ畫ケルモノハ或一時代ノ心運動ノ踪跡ト見ル
ヲ得可ク而シテ此等ノ一時代ノ積ミ上ゲタルモノハ遂ニ一ノ圓柱若クハ圓錐
又ハ紡錘ヲナスモノトスルヲ得可シ但此等ノ場合ニ於テ圓柱等ノ實體ノ高サハ時
間ヲ顯ハシ截面ハ空間ヲ顯ハシ半徑ハ心(物質トシテ)ヲ顯ハシタル積リナリ

一時代



人事已ニ此圓柱ニテ計ルヲ得ルトスレハ各國若クハ各人種ノ運動ノ價值ハ此等ノ圓柱ノ高サト其大サトノ積ニテ知ラル、筈ナリ今年數ナ丈ニ見積リ柱ノ最大ナル邊ヲ横斷セバ左ノ如キ紋理アルヲ見ル

四千八百九十丈

印度



哲學發達期

英國ノ有トスル期

四千二百丈

支那



秦 明 元

二千六百九十丈

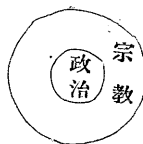
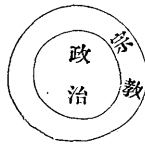
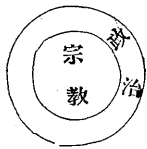
羅馬



外征時期

帝國期

蠻人ノ侵入



二千五百五十一丈

日本

三韓交通 西洋交通 明治維新



以上ノ所説ニヨリテ見レバ吾人人類ハ圓柱ヲ營ムノ動物タルヲ知ル而シテ其圓柱ノ高サト大サトハ吾人ノ働キノ結果ナルヲ思ヘバ吾人ハ成可ク大ニ高キ圓柱ヲ作り出サンコソ望マシケレ而シテ此圓柱ニハ有瑕ト無疵トアリ大ハ誠ニ大ナルモ或ハツギメアルアリ例ヘバローマ支那印度ノ如シ小ハ小ナレモ亭々トシテ雲ヲ凌ク迄一小瑕ナキモノアリ例ヘバ日本ノ如シ嗚呼無歛ノ我國吾人焉ン今後有瑕トナシテ可ナランヤ

只夫レ松風ノ音ノミ而シテ彼が如ク偉ニ此が如ク大ナル働キヲナス抑モ如何ナル性質ノモノニシテ如何ナル形ヲ有スルモノナルヤ不可思議ニ堪ヘザルモノアリ而シテ吾人が少々慥カメ得ル所ノモノハ唯左ノ二點ニ過ギズ曰ク心トハ運動スルモノナルヲ曰ク其形圓キヲナリ而シテ第一ニ向テノ証據ハ上ノ所説ニヨリテ明ナル可ク左ノ歌ハ以テ第二ニ証スルニ足ル可キカ古歌ニ「圓くとも一角あれや人心餘り圓きは轉ひやすきぞ」ト左レハ心ハ一休圓キモノト見ヘタリ今上ノ所説ヨリシテ心ノ定義ヲ下セバ曰ク心トハ大抵圓クシテ墨畫ニ書キシ松風ノ音ニ等シキモノナリト

今吾人ヲシテ少シク其性質ヲ講究セシメヨ上來ノ推理ヨリシテモ之ヲ知ルヲ得可キガ如ク心トハ休ヲ顯ハス名トスレハ心ハ動クト云フヲ得可シ而シテ動クハアリト云フヲ承認スレバ又之ガ靜ナル場合アルコトハ甚ダ明ナルガ如シ殊ニ吾人日常ノ經驗ヨリシテ人ノ心ガ常ニ動キ若クハ變遷シ進化シ又ハ開發スルコトモ明ナル可シ諺ニモ「變リ易キハ人心」トカ、心ガ動ク鹽梅ハ吾人が常ニ見テ以テ知悉スル所ナル可シ故ニ心ハ靜ナルハアリ動クハアリト云フヲ得可シ即心ニハ動靜ノ二狀アルコトヲ知ル

心

動

自然動體

靜

(イ) 自然本體……熟睡的

(ロ) 斷念靜體……禪學的

而シテ靜動孰レモ心ノ本性ナルハ一ヲ滅シテ他ヲ本トスルノ理アルヤ此點ヨリシテ之ヲ言ヘバ斷念靜體ヲ主トスルハ自然ニモトルナキカ蓋シ心ノ發達ヨリ云フハ其靜ナル場合ニアラズシテ動ケル場合ナルガ如シ果シテ然ラバ外物ニ誘ハレズトカ人慾ヲ斷ツトカ云フ如キ工夫ノ爲ニ心ヲ靜ナラシメントスルハ心ノ開發ヲ妨グル憂ハナキヤ兎ニ角禪學等ニテハ此靜ヲ得ルノ工夫ヲナシ木石ノ如クナランコトヲ勉ムルニ似タリ古歌ニ「心ナキ身にもあわれは知られけり鷗立つの秋の夕暮」サレバ秋ノ夕暮ハ端ナク無心ヲシテ有心トナラシメタルモノニヤ (以下次號)